

# KTMS

順調な追い上げをみせるもトラブルに泣く  
シーズン最長の一戦は5位で終える



SuperTaikyu   
Japanese Endurance Race

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2024 Empowered by BRIDGESTONE  
第2戦 NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レース

2024年5月24日(金)～5月26日(日) 富士スピードウェイ(静岡県)  
入場者数: 5月24日: 5,000人 / 5月25日: 26,400人 / 5月26日: 23,300人

## PRACTICE

STEL 専有走行

5月23日(木)

天候: 曇り 路面/ドライ

第1戦 SUGO では、スタッフ全員が一丸となって作り上げた KTMS GR YARIS が嬉しい優勝を遂げ、喜びに沸いた KTMS。シーズンに向けた流れを掴みたい第2戦は、富士スピードウェイで開催される NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レース。KTMS にとっては、最高の笑顔も悔しい涙も思い出す、シリーズ最長、最難関の一戦だ。

24 時間レースだけに、他チームは多くが“助っ人”ドライバーを起用するが、KTMS は若き一條拳吾 / 奥本隼士 / 小林利徠斗 / 中村仁の4人という開幕戦と同じメンバーで臨んだ。長年チームを支える一條にとっては、まだ成し得ていない富士24時間での優勝が大きな目標にもなっていた。

そんな一戦に向け、ST-2 クラスは1台のシビック・タイプRが増え、さらに激戦区となっていた。とはいえ KTMS GR YARIS にスピードがあることは第1戦で確認できている。KTMS は5月22日(水)のスポーツ走行は走らず、5月24日(木)の2回の走行から週末に向けた準備を進めた。

曇天のもと午前小林と中村、午後は一條と奥本の周回を多めにとりラップを重ね、午前は5番手、午後は4番手とライバルが速い状況ではあったが、今回は何しろ長丁場。決して KTMS GR YARIS に無理をさせない走り午後7時から行われた夜間専有走行もこなし、KTMS は長いレースウィークの初日を締めくくることができた。



# KTMS

## QUALIFY 公式予選

5月24日(金)

天候：晴れ 路面／ドライ

富士 SUPER TEC 24 時間レースは土日が決勝ということもあり、5月24日(金)は午後0時から公式予選のみが行われた。

まずAドライバー予選に出走した一條は、1分53秒063を記録。ST-2クラスの3番手につける。続くBドライバー予選では、奥本が1分53秒299を記録するも、ここでは5番手。合算タイムでは5番手という結果となった。上位はランサー勢、シビック勢がつ

けており、彼らのスピードは気になるものではあったが、今回はクルマを大切にすることが最重要課題。その意味では、5番手は悪い位置ではないとも言えた。

Cドライバー予選では、小林が1分55秒201を記録し2番手に。Dドライバー予選では中村が1分54秒139を記録し首位につけ、KTMSはここまでトラブル等もなく、順調に予選日を終えた。



## RACE 決勝レース

5月25日(土)～26日(日)

天候：曇り～雨～晴れ 路面／ドライ～ウェット～ドライ



これまでの富士 SUPER TEC 24 時間レースのなかでも最多となる観客数が訪れ、盛り上がりを見せた5月25日(土)からの決勝レース。午後3時、ついにその火ぶたが切って落とされた。

今回 KTMS GR YARIS のスタートドライバーを務めたのは奥本。ただ1周目、そのまま奥本はピットロードに入っていく。今回、KTMS のAドライバーハンディキャップは非常に大きく、なんと300秒のストップが課せられていた。混雑している序盤に、まずはそれをこなしてしまおうという作戦だ。

ここから KTMS は、24 時間という長い時間を使っての追い上げをスタートさせた。決して無理をするわけではないが、コンスタントなペースで少しずつ順位を上げていく作戦だ。その狙いはしっかりと発揮され、奥本が

ら中村、一條、小林と順調にバトンを繋ぎながらラップを重ねていった。今回のレースは各所でアクシデントやトラブル等はあるものの、セーフティカーが導入されることはなく、淡々とレースが進んでいった。

ふたたび奥本が乗り込む頃にはすっかりサーキットには夜のとばりが下りていたが、ライバル

たちのトラブルもあり、KTMS GR YARIS はしっかりとトップを見据える位置まで浮上していく。ただ首位の #13 GR YARIS は順調に周回を重ねており、彼らを目指しさらに KTMS はレースを戦っていった。

そんななか、奥本から中村に交代する頃には、サーキットには雨が降りはじめた。次第に雨脚は強くなったが、そこまで急激に路面が濡れるわけでもない。中村から代わった一條は、雨のなかスリックで粘りの走りを披露。深夜には一度奥本のスティントを挟みながら、ふたたび一條がステアリングを握り、追撃を続けていった。

しかし、そろそろ朝日が見えようかという午前5時過ぎ、恐れていたトラブルが起きてしまった。原因はデフで、チームは1時間32分にわたる作業を強いられてしまった。

なんとかチームは修復を終え、小林がステアリングを握り再コースイン。少しずつ雨が止み、路面も乾くなか中村に代わり再度追いつけたものの、今度は車輪速センサーのトラブルで ABS に不調を抱え、午前9時を前にまたも1時間ほどの作業を強いられた。

修復後は一條、小林、中村、さらに奥本とステアリングを繋ぎ、周回を重ねていったものの、終わってみればトップからは74周遅れの5位という結果となった。タラレバは禁物ではあるが、ふたつのトラブルさえなければ、優勝した #13 GR YARIS とは面白い勝負ができていた可能性もあった。

とはいえ、悔やんでばかりもいられない。富士 SUPER TEC 24 時間レースは獲得ポイントも多い。メカニックたちが力を合わせ車両修復を行ったおかげで、しっかりとポイントを獲得することができた。

次戦は7月のオートポリス。チームは一丸となってトラブルの原因と対策を進め、次戦今シーズン2勝目を目指す。



# KTMS

## DRIVERS & ENGINEER VOICE

ドライバー&エンジニアコメント



### 一條 拳吾 KENGO ICHIJO

KTMSでの3回目の24時間で、三度目の正直と思っていましたが、このレースの過酷さを改めて痛感しました。今回は結果以上にトラブルなく走り切ることを目標に掲げていたので、それを達成できなかったところにいちばんの悔しさを感じます。とはいえ、これまで経験していなかったトラブルだったので経験になると思いますし、トラブルに対しみんなでひとつになって作業にかかれたので、成長に繋がると思っています。今回良かったことを次戦に活かしていきたいですね。



### 奥本 隼士 SHUNJI OKUMOTO

5位という結果ではありますが、何が起きても諦めないというみんなの思いが、最終的に完走という結果に繋がったのではないかと考えています。自分の走りとしても、雨などいろんなコンディションがありましたが、個人的にはしっかりとやり切ることができたと思います。もちろん優勝を目指していたので悔しい気持ちもありますが、みんなで一緒に頑張ることができたのは良かったので、次戦オートポリスではしっかりと良い結果に繋がられるよう、頑張っていきたいと思っています。



### 小林 利徠斗 RIKUTO KOBAYASHI

率直に言ってしまうと楽しかったです。24時間耐久レースは有名なところではル・マン24時間などありますが、そういったレースに興味がありましたので、この富士もイベント全体として盛り上がっていました。クルマのトラブルが起きてしまったのは悔しいですが、これもひとつの経験として次に活かしていきたいですし、クルマを労りながら燃料もタイヤも気にして走ることは大変でしたが、気を配るほど良い走りができると思うので、その点ではもっと成長できるようにしたいです。



### 中村 仁 JIN NAKAMURA

長かったですね。天候や路面の変化も起きますし、僕たちはトラブルもあったので、新たな経験が積めたのではないかと考えています。第1戦ではレースでドライブできませんでしたが、みんなと同様クルマを労る走りができたと考えています。レースではクルマのことも勉強できたので、たくさん乗れたことは良かったですね。次戦のオートポリスもかなりクルマに負担が大きいコースだと思いますので、クルマを労りながら、次戦以降降られることを全部やって勝ちに行きたいと思っています。



### 上田 昌宏 MASAHIRO UEDA 神戸トヨペットエンジニア

トラブルの原因としては最初はデフ、次は車輪速のスピードセンサーのトラブルでした。今までなかったものですね。ただそもそも、我々がノートラブルだったらトップに立てていたのかというと、今回は僕の力不足を感じました。ライバルの戦略が良く、それを後追いするしかなかったところがあります。今回のレースでは多くのチームがタイヤ無交換作戦を採っていたのですが、次戦オートポリスはそれが厳しくなると思います。また違った戦略になると思うので楽しみにしています。





# KTMS

## SUPER TAIKYU 2024 Round.2 RESULT

リザルト



5/24(FRI)-26(SUN)

主催：富士スピードウェイ株式会社 / FISCOクラブ (FISCO-C) 公認：一般社団法人日本自動車連盟 (JAF) 認定：スーパー耐久機構 (S.T.O.) / Doモータースポーツアソシエーション(DMA)  
特別協賛：一般社団法人日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会 (NAPAC)  
後援：静岡県小山町 / 御殿場市 / 裾野市 / 公益社団法人静岡県観光協会 / 小山町観光協会 / 一般社団法人御殿場市観光協会 / 一般社団法人裾野市観光協会 / 小山町モータースポーツ協力会 / テレビ静岡

### ST-2 決勝レース

2024 / 5 / 26



### 正式結果表

Weather : Cloudy/Rain

Fuji Speedway(4,563m)

Track : Dry & Wet

Pos	No	Car	Lap	Total Time	Gap	Ave. km/h	A Driver	Lap	A Dr. BEST	B Driver	Lap	B Dr. BEST	C Driver	Lap	C Dr. BEST	D Driver	Lap	D Dr. BEST	E Driver	Lap	E Dr. BEST	F Driver	Lap	F Dr. BEST
1	13	ENDLESS GR+R18	694	24:03'03.273		131.655	花里 祐弥	125	1'55.174	石坂 瑠基	228	1'54.881	伊東 黎明	216	1'54.660	岡田 豊	125	1'55.168						
*1	2	6 新菱オードXDL夢住まい館EVO10	687	24:02'31.706	7Laps	130.374	富樫 朋広	110	1'54.516	菊地 晴	160	1'54.483	大橋 正澄	72	1'54.313	朝日 ターホ	197	1'54.382	松沢 隆弘	148	1'54.809			
*2	3	743 Honda R&D Challenge FL5	687	24:02'56.709	7Laps	130.337	石垣 博基	248	1'54.692	野尻 智紀	191	1'54.587	木立 純一	42	1'56.684	柿沼 秀樹	85	1'56.393	小林 天翔	121	1'56.460			
*3	4	72 OHLINS CIVIC NATS	651	24:03'11.295	43Laps	123.485	金井 亮志	125	1'56.785	山野 哲也	122	1'55.408	野島 俊哉	136	1'57.344	川福 健太	91	1'57.677	森本 進一	60	2'02.234	南澤 拓実	117	1'55.366
5	225	KTMS GR YARIS	620	24:01'30.374	74Laps	117.742	一色 孝吾	176	1'54.387	奥本 善士	170	1'54.660	小林 利雄	126	1'54.509	中村 仁	148	1'54.767						
*4	6	7 新菱オードXDL夢住まい館EVO10	698	24:02'31.787	86Laps	115.381	後藤 比菜菜	127	1'55.847	安斎 兼介	107	1'55.575	吉岡 一成	96	1'55.856	碓井 久彦	113	1'54.712	木村 和明	73	1'56.943	岡原 達也	92	1'56.315
*5	7	36 HCM 内野製作所FL5	595	24:02'45.896	99Laps	112.895	岩間 浩一	119	1'58.138	内野 徳昭	66	2'01.105	阿久津 誠孝	70	1'59.277	土肥 潤	129	1'58.293	坂井 拓斗	99	2'00.667	松本 恭典	112	1'58.672
***** 以上完走 (規定周回数 ST-2 : 485Laps) *****																								
95	SPOON	リゾナー CIVIC	281	14:35'16.414	413Laps	87.874	山田 英二	44	1'56.411	小出 峻	133	1'54.912	ヒスト/西沢	3	1'59.982	三井 優介	101	2'00.595	松井 猛敏					中島 保典

#### Fastest Lap

1'54.313 (2 / 687) 143.700 km/h 6 シノヨウレーシングチーム / 新菱オードXDL夢住まい館EVO10

Start Time : 15:00'06 Finish Time : 15:03'09.273

Entry : 8 Start : 8 Finish : 7

FCY導入：1回目16:40'05(56Laps)~16:45'05(57Laps),2回目19:51'40(162Laps)~19:54'00(163Laps),3回目21:07'09(204Laps)~21:10'57(204Laps),4回目23:26'10(281Laps)~23:32'03(282Laps),5回目1:46'53(352Laps)~1:57'56(354Laps)  
6回目2:48'03(382Laps)~2:57'38(383Laps),7回目3:05'07(388Laps)~3:05'53(388Laps),8回目4:58'22(447Laps)~5:03'46(448Laps),9回目10:02'22(610Laps)~10:04'28(612Laps),10回目11:19'47(652Laps)~11:28'14(653Laps)

- \*1 CarNo.6は、シリーズ規則第18条(8)(ピット作業要員の装備品不備)違反により、ペナルティ70秒を課す。
- CarNo.6は、シリーズ規則第18条(14)(燃料給油中にエンジン始動)違反により、ペナルティ70秒を課す。
- \*2 CarNo.743-Bは、大会特別規則第24条(1)(連続運転時間14分48秒超過)違反により、ペナルティ70秒を課す。
- \*3 CarNo.72は、シリーズ規則第18条(13)(燃料給油中にシフトアップ)違反により、ペナルティ70秒を課す。
- \*4 CarNo.7-Bは、シリーズ規則第18条(3)(ピットレーン速度)違反により、ペナルティ70秒を課す。
- \*5 CarNo.36は、シリーズ規則第18条(8)(ピット作業要員の装備品不備)違反により、ペナルティ70秒を課す。

計時委員長	大会競技長	審査委員長
-------	-------	-------